

精華町における森林ゾーニングと森林管理保全指針の作成

京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 長島啓子・武田征士・神代圭輔・浅田みなみ
 京都府立大学 京都地域未来創造センター 長澤淳一
 京都先端科学大学 田中和博
 精華町役場 塚田 寛 岩崎智代 上村邦雄 中本沙也加

課題 森林経営管理制度（2019年度スタート）

所有者が管理できず，林業経営にゆだねられない森林を市町村が代わりに管理する制度が盛り込まれる

「精華町のように人工林が少なく，林業経営できる森林が少ない市町村は，どう対応をしたらよいか??」

ねらい

広葉樹林も含めた森林の管理保全指針を作成するため，森林ゾーニング（案）を作成する
 ⇒同様の課題をもつ他の市町村のモデル事例にもなる

目的

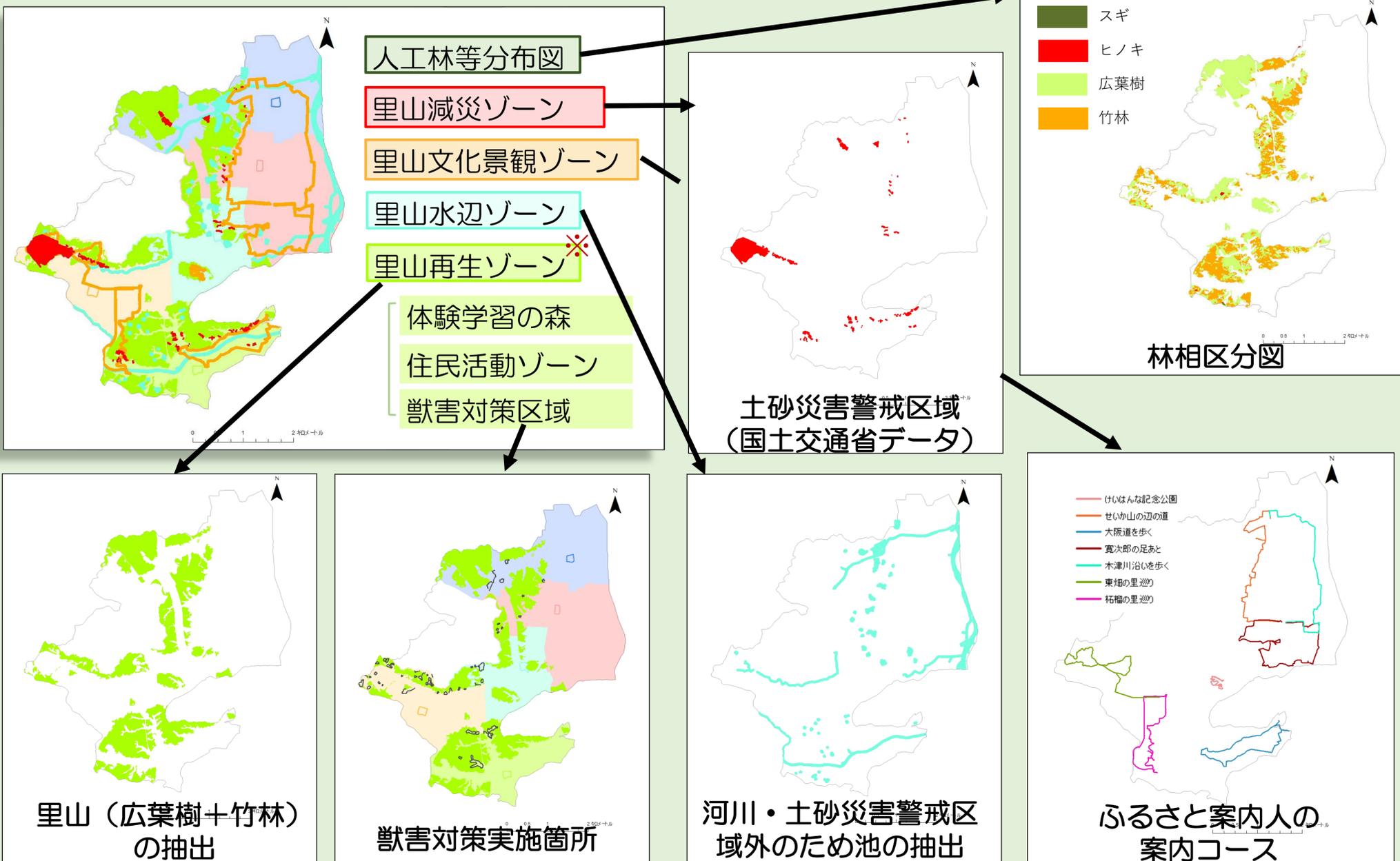
- 1) 調査里山自然度調査および生物多様性調査（Stroly map の作成）
- 2) 森林ゾーニング（案）の作成

1) 調査里山自然度調査および生物多様性調査

- ・東畑において季節毎の植物を示したStroly Mapを作成
- ・精華町内の湿地の植物調査で，合計153種確認
 他の都道府県で絶滅が危惧されている種もあり，
 精華町の豊かな自然を確認できた。



2) 精華町森林ゾーニング（案）



※里山再生ゾーン：竹林拡大防止策や広葉樹資源の利用促進を通し里山の再生を行うゾーン。
 体験学習の森や住民活動ゾーンのモデル地区にて具体策の検討を行う予定。